

# 第57回地域農林経済学会大会のご案内

2007年7月  
地域農林経済学会

第57回地域農林経済学会大会を下記の要領で開催いたします。

今大会は、第1日目の国際シンポジウムも含めて4日間の開催となります。また、個別報告と大会シンポジウムの開催順序が入れ替わるなど、例年の大会とは異なった点がいくつかあります。これらにご注意のうえ、奮ってご参加願います。

なお、今大会は、石川県および金沢市から国際会議開催のための支援を受けて運営されます。特に、外国人の方のご参加を期待いたします。

1. 期 日：2007年10月19日（金）～22日（月）

2. 日程および会場

2-1. 開催地：金沢市文化ホール（第1日、第4日）

〒920-0864 金沢市高岡町15番1号

TEL (076) 223-1221 (代), FAX (076) 223-1299

石川県立大学（第2日、第3日）

〒921-8836 石川県石川郡野々市町末松1丁目308番地

TEL (076) 227-7220 (代), FAX (076) 227-7410

開催期間中の連絡先：

小林 雅裕 TEL (076) 227-7442 [coba@ishikawa-pu.ac.jp](mailto:coba@ishikawa-pu.ac.jp)

辻井 博 TEL (076) 227-7446 [tsujii@ishikawa-pu.ac.jp](mailto:tsujii@ishikawa-pu.ac.jp)

2-2. 日 程

【第1日】10月19日（金）国際シンポジウム（金沢市文化ホール、同時通訳あり）

テーマ：「直接所得支払政策は効率的経営を増やし、

生産に中立的で、多面的機能を向上するか

－日本の品目横断的経営安定対策に留意して－

シンポジウム [13:00～17:20]（受付開始12:30～）

【第2日】10月20日（土）個別報告他（石川県立大学、「ぶどうの木」）

1. 個別報告 [9:30～15:30]（石川県立大学K126～K403教室）（受付開始9:00～）

2. 総 会 [15:50～16:50]（石川県立大学K219 第1大講義室）

<大学のバスと観光バス各1台で移動>

3. 懇親会 [18:00～20:00]：「ぶどうの木」〒920-0171 金沢市岩出町ハ50-1

TEL (076) 258-0001 (代), FAX (076) 258-5802 <http://www.budoo.co.jp/>

【第3日】10月21日（日）大会シンポジウム（石川県立大学 K219 第1大講義室）

テーマ：「地域の豊かさとは何か －農林業からの展望－」

シンポジウム [9:30～15:00] (受付開始9:00 ～)

【第4日】10月22日(月) 地域シンポジウム(金沢市文化ホール)

テーマ: 「品目横断的経営安定対策は水田農業の構造改革を進めるか  
—北陸地域における検証—」

シンポジウム [10:00～15:00] (受付開始 9:30～)

【その他】

- ・編集委員会 : 10月19日(金) [17:30～18:30] 金沢市文化ホール
- ・支部代表連絡会議: 10月19日(金) [17:30～18:30] 金沢市文化ホール
- ・理事会 : 10月19日(金) [18:30～20:30] 金沢市文化ホール

\* 大会会場の地図・交通案内、宿泊ホテル等は、後掲【付-1】【付-2】をご参照下さい。

2-3. 参加費用等

- ・大会参加費: 一般会員 3,000円、学生会員 1,500円、  
外国人の参加者(非会員を含む) 無料
- ・報告要旨代: 2,500円(概算)、外国人の参加者(非会員を含む) 無料
- ・懇親会費(予定): 一般会員5,000円、学生会員3,000円

3. 国際シンポジウム 10月19日(金) [13:00～17:20] \* 同時通訳あり。下線部は報告者。

テーマ: 「直接所得支払政策は効率的経営を増やし、  
生産に中立的で、多面的機能を向上するか  
—日本の品目横断的経営安定対策に留意して—」

座長解題: 辻井 博(石川県立大学)

「品目横断的経営安定対策は食料安全保障など  
農業の多面的機能と経営効率を向上するか」

報告:

- ・ Hye-Jung Kang & Jeong-ho Kim, Korea Rural Economic Institute.  
「韓国稲作における直接所得支払政策は経営効率、構造改善、米生産と食料安全保障や  
景観など多面的機能を向上したか」
- ・ David Abler, Dept. of Agr. Econ. and Rur. Sociology, Penn State Univ.  
「価格・所得政策は農業の多面的機能を効率的に保全するか—取引費用と生産の連結性—」
- ・ Larry Burmeister, Univ. of Kentucky.  
「東アジア諸国における国際農業交渉と多面的機能の役割」
- ・ Thia Hennessy, Rural Economy Research Center, Ireland.  
「2003年CAP改革の直接支払い制度がアイルランド農業に及ぼす影響」
- ・ Nico Heerink, Wageningen Univ. & Shi Xiaoping, Nanjing Agr. Univ.  
「中国の農家直接支払制度の所得分配及び農業生産への影響」

2007年度から日本農政は、かつての関税化と全農家を対象にした価格支持的政策から、(1)貿易自由化と大規模経営選択的(部分的にディカップルされた)直接支払い政策と、(2)農業の多面的機能維持の二本建ての政策に大転換をしつつある。この自由化と直接支払い政策は、世界と比

べ日本のコメ生産費が大幅に高いため、国内米価を将来大幅に低下させ、選択された大規模経営は参考するべき米価が低すぎて無くなり、ハイエクの言う市場がない計画経済状態に直面し、直接支払いに依存した非常に非効率な経営になる可能性が高い。さらに日本の家族稲作小農のうち、担い手としての集落営農に組織化されない多分200万戸ほどを消滅させ、日本のコメ自給率を大幅に引き下げ、食料安全保障水準を低下させる。

EUでは2005年からディカップルされた直接所得支払い政策が行われてきた。そのEU農業に対する影響の理論的・モデル予測は、穀物及び畜産物の生産の大幅な減少であった。しかし、この影響に関するEU諸国の農家反応の調査ではむしろ生産を維持すると答えた農家が多く、生産を増やすと答えた農家もかなりあった。この理由には農家の新政策無理解と慣習的行動が挙げられている。またディカップルされた直接支払いが、真に生産を維持ないし増加させるなら、その重要な政策目的が達成されないことになるし、WTO交渉でも問題になる。また直接支払いや農業環境政策は、EUで農業の多面的機能を保全するためにもなされてきた。OECDやAblerの研究では、農業は農産物と多面的機能の両方を生産するが、これらの連結性の程度により、この政策の貿易への歪曲効果が決まる。また農業環境政策はその取引費用が非常に大きいから、価格政策の方が安上がりの場合もある。またAblerは適切な農業環境政策の形成には、政策の規模の経済と手段と目的の組み合わせの2要因が重要であるとする。

中国が最近農都所得分配格差の削減のため、全国農家を対象にした直接支払い政策を始めた。本国際シンポでは上述の座長仮説をたたき台に、大会シンポや地域シンポとの関係も考慮しつつ、直接支払の農業生産と地域の豊かさや食料安全保障を含む多面的機能への影響を国際比較する。

#### 4. 個別報告 10月20日 (土) [9:30~15:30]

- ①個人・連名報告は1件につき、30分(報告20分、質疑応答10分)を予定しています。
- ②筆頭報告者には、会員の資格が必要です\*。非会員の方には、入会関係書類を送付しますので、至急学会事務局までお申し出下さい(学会HPからのダウンロードも可能です)。  
\*学会当日までに、入会金と年会費の納入が必要です。
- ③個別報告の申し込み方法については、後掲【付-3】を参照してください。特に、**個別報告論文への掲載等で、従来とは方法が異なる点がありますので、十分に注意してください。**
- ④科学研究費などの共同研究者がそれぞれ報告し、議論を深めるための取り組みとして、「グループ報告」を受け付けます。例えば、5名で報告する場合2時間程度の枠を取り、その範囲で座長の進行により議論を深めます。「グループ報告」をご希望の場合、事前に担当理事(小野雅之:masaono@kobe-u.ac.jp)にご相談のうえ、手続きをしてください。

☆今大会では従来とは異なり、第2日目に個別報告を行い同日夕刻より懇親会を開催します。これは、特に若手研究者が、個別報告時には十分議論できなかった点も含めて、多くの参加者と意見交換・交流してもらうことを目的にしています。個別報告・懇親会への積極的な参加を期待します。

#### 5. 大会シンポジウム 10月21日 (日) [9:30~15:00]

共通論題:「地域の豊かさとは何か - 農林業からの展望 -」

座長 北川 太一（福井県立大学）

第1報告 秋津 元輝（京都大学）

「地域の豊かさへのアプローチ—地域農林業研究における志しの復権—」

第2報告 大江 靖雄（千葉大学）

「多角的資源利用と農村経済の持続性」

第3報告 本野 一郎（神戸大学農学部地域連携センター）

「農の豊かさの追求と地域の価値」

総括コメンテーター 増田 佳昭（滋賀県立大学）

「地域」を冠している本学会のアイデンティティを再確認・再構築することを目的とした大会シンポジウムを、本年度以降、継続して取り上げていく予定である。

その第1ステップとして本大会では、特に「地域の豊かさ」（くらし、モノ、資源、人と人とのつながり、社会などの豊かさ）を素材にしながら、グローバリズムが席卷し、都市と地方の「格差」問題等が取り上げられる中での「地域」の価値を見出し、地域農林業研究の論理・方法論を再構築するための糸口を見つけることをねらいとしている。

第1報告（秋津）では、本シンポの総論的位置づけも兼ねて、まず本学会がこれまで論じてきた「地域」の概念・捉え方の批判的サーベイを行う。そのうえで、地域の豊かさというテーマに向かって、地域農林業研究がとるべき基本姿勢について検討する。

第2報告（大江）では、農業・農村資源の多面的機能・多角的利用に関する経済的アプローチを通じて、農村地域の資源・モノの豊かさについて検討する。

第3報告（本野）では、「農」（農林業、食、農村など広く捉える）が持つ豊かさの考え方（思想、理念）、これを追求・実現していくうえでの「地域」が持つ意味・価値について、実践家の立場から問題提起する。

なお、本シンポジウムでは、コメンテーターを一人（総括コメンテーター）として、三つの報告にはなかった観点も含めて論点・問題を提起してもらおう。これらを踏まえて、フロアーも交えて活発な討議を行ってきたい。

## 6. 地域シンポジウム 10月22日（月） [10:00～15:00]

テーマ：「品目横断的経営安定対策は水田農業の構造改革を進めるか

—北陸地域における検証—」

座長：小林 雅裕（石川県立大学）

報告者：＜基調報告＞ 酒井 富夫（富山大学）

＜実践報告＞ ①池田 太（富山県・農林水産部）

②番場 睦夫（石川県・（有）ばんば 代表）

③小野田 真次（福井県・ハーネス河合 組合長）

コメンテーター：吉田 俊幸（高崎経済大学）、山崎 政行（農林漁業金融公庫）

品目横断的経営安定対策が本格化する中で産地はいかに将来に向けて展開すべきかを、個別法人経営と集落営農の立場から直面している課題、加えて行政の抱える課題を、見通しが立たない現状について北陸の産地から議論する。

## 7. その他連絡事項

### (1) 大会参加の申し込み

大会準備のため、出席の有無にかかわらず同封のハガキに所定の事項をご記入の上、50円切手を貼って、8月7日（火）までに必ず投函願います。

### (2) 宿泊について

事務局では斡旋いたしませんので、各自でご予約下さい。

### (3) 昼食について

第1日、第4日の会場である金沢市文化ホール周辺には昼食できるレストラン・食堂が数多くあります。

第2日、第3日の開催会場である石川県立大学周辺には、徒歩範囲で利用できる食堂がありません。お弁当を手配いたしますので、受付でお弁当の注文をしてください。

### (4) 金沢市内から石川県立大学への送迎について

大学と金沢市内とを結ぶバスは本数が少なく不便ですので、大学への送迎用バスを金沢駅から用意いたします。

\*バスの前面に「地域農林経済学会」のプレートがあります。

経路：金沢駅（西口バス降車場）→武蔵ヶ辻（三井住友銀行前）→香林坊（アトリオ前）→石川県立大学

#### < 10月20日（土）のバス運行 >

- ・第1便:金沢駅発(8:00)→武蔵ヶ辻(8:05)→香林坊(8:10)→石川県立大学(8:40)
- ・第2便:金沢駅発(8:20)→武蔵ヶ辻(8:25)→香林坊(8:30)→石川県立大学(9:00)
- ・第3便:金沢駅発(11:40)→武蔵ヶ辻(11:45)→香林坊(11:50)→石川県立大学(12:20)

#### 懇親会会場への移動について：

石川県立大学から懇親会会場の「ぶどうの木」までバスを用意いたします。懇親会終了後は、会場から片町・香林坊・金沢駅へのバスを用意いたします。

- ・往き：大学発(17:10)→「ぶどうの木」(17:50)
- ・帰り：「ぶどうの木」(20:10)→片町・香林坊・武蔵が辻・金沢駅

#### < 10月21日（日）のバス運行 >

- ・第1便:金沢駅発(8:00)→武蔵ヶ辻(8:05)→香林坊(8:10)→石川県立大学(8:40)
- ・第2便:金沢駅発(8:20)→武蔵ヶ辻(8:25)→香林坊(8:30)→石川県立大学(9:00)

帰り：第1便：大学発（15:30）→金沢駅（16:10）

第2便：大学発（15:50）→金沢駅（16:30）

【付-1】 金沢市文化ホール・石川県立大学へのご案内

金沢駅から「金沢市文化ホール」まで、徒歩で約15分です。

バスをご利用の場合は、金沢駅東口バス乗り場から多くのバスが出ています。

「武蔵」「香林坊」経由のバスで「南町」下車です。



石川県立大学まで

タクシー：金沢駅から約30分、料金約3,200円。松任駅から約10分、料金約1,800円

路線バス：

- ・金沢駅から「33」「30」「31」番「南部車庫」方面行き（料金450円、約40分）  
「金沢駅東口」発9時16分「加賀産上林」着9時56分。大学まで徒歩約20分。
- ・金沢駅周辺「中橋」「六枚町」「武蔵」から「金石」方面「南部車庫」行き。  
「武蔵」発7時19分「加賀産上林」着7時52分。  
「武蔵」発8時29分「加賀産上林」着9時02分。
- ・「兼六園下」「43」番「富光寺住宅前」行き。  
「兼六園」発7時35分「香林坊市役所前」発7時38分「片町」発7時42分を経て  
「石川県立大学前」着8時13分。
- ・詳細は、「北陸鉄道」のHP（<http://www.hokutetsu.co.jp/>）をご覧ください。

#### 【付－2】 会場周辺の旅館・ホテルについて

金沢駅周辺、香林坊・片町には多くのビジネスホテルがあり、国際シンポジウムと地域シンポジウムの会場である「文化ホール」には徒歩圏内です。

ホテルについては、「インターネットのホテル予約」の各サイトをご覧ください。

#### 【付－3】 個別報告の要旨原稿の様式・申し込み方法、個別報告論文投稿に際しての注意事項などについて

##### （1）様式

- ①本学会ホームページ（<http://wwwsoc.nii.ac.jp/arfe/>）にあるフォーマット（一太郎版、ワード版）をダウンロードして下さい。
- ②必ずワープロで作成して下さい。投稿されたA4版用紙そのままをB5版に縮小、印刷・製本する予定です。

##### （2）申し込み方法

- ①個別報告の希望者は、8月7日（火）までに同封のハガキにより申し込みを行い、8月17日（金）までに（消印有効）、報告要旨を地域農林経済学会事務局宛（本状末尾に掲載）に3部提出して下さい。締め切り日以降は、報告要旨を受理しませんのでご注意ください。
- ②今大会より、連名での個別報告については、連名報告者の当該研究への貢献内容を提出してもらうことになりました。については、本学会ホームページ（上記（1）①参照）にあるフォーマット（一太郎版、ワード版）をダウンロードし、報告要旨とともに事務局宛に2部提出して下さい。（8月17日（金）まで。消印有効）
- ③OHP、パワーポイントの利用を希望する方は、申し込みハガキの該当欄に○印をつけて下さい。パワーポイントは、個別報告会場に備え付けのプロジェクターとPCで報告していただきますので、ウィンドウズ対応のソフトで作成のうえ、報告当日にフラッシュメモリー、CD等を持参して下さい。（オフィス2007は使用不可）

(3) 個別報告論文として投稿を希望する方へ

10月12日(金)必着で、個別報告論文への投稿を前提とした完成原稿を、個別報告座長と学会誌編集事務局に1部ずつ送付して下さい。(詳しくは、『農林業問題研究』第165号・49ページをご覧ください。)

論文投稿要領については、下記の「個別報告論文投稿要領」をご参照下さい。

## 個別報告論文投稿要領

### 1. 投稿資格および掲載料

投稿者は、当年度の地域農林経済学会大会における個別報告者で、大会当日の1週間前までに、投稿を前提とした完成原稿(書き方・枚数は本要領に準ずる)を個別報告座長と学会誌編集事務局に送付したものの、および大会当日に配布する『農林業問題研究』大会個別報告掲載申込書により、掲載を希望するものに限る。4.の審査により掲載を許されたものは、別表の掲載料(別刷30部の代金も含む。ただし、30部以上希望する場合は部数に応じて別途印刷実費負担が必要)を、所定の郵便振替口座あるいは銀行口座(入金用紙は校正原稿送付時に同封する)に入金するものとする。なお、入金が掲載の必要条件となる。掲載料は2年ごとに見直す。

4 頁まで …3 万円

5 頁 …4 万円

6 頁 …5 万円

### 2. 投稿原稿

原稿はワープロを用いて執筆し、原稿一枚あたりの字数を明記したうえで、原稿を、図、表とともに3部(ただし2部はコピーでよい)ならびにフロッピー・ディスクを添えて提出する。なお、原稿は未発表のものに限る。

### 3. 原稿の書き方・枚数

2.で説明した原稿の書き方以外は、『農林業問題研究』投稿規程および記載方法の当該箇所(「原稿の書き方・枚数」「図表の作成」「注・引用文献等の記載方法」など)の説明に準ずる。

枚数は図表も含め刷り上がり6頁以内(400字詰め20枚が目安)を基本とし、やむを得ない場合に限り最大7頁(掲載料6万円)まで認める。7頁を超える原稿は掲載できない。

刷り上がり紙面は当学会誌『農林業問題研究』通常号の論文と同一の活字・書式とする。



#### 4. 審査

常任編集委員会が定める所定期日（個別報告希望者に別途文書で通知する）内に受付たもののみを対象とし、審査員の審査を得て最終的には常任編集委員会が採否を決定する。

#### 5. 著者校正

著者校正を1回行う。その際印刷上の誤り以外の字句修正、あるいは原稿になかった字句の挿入および図版の修正は認めない。

#### 6. 掲載号について

大会個別報告論文は、大会翌年度の『農林業問題研究』6月号に掲載される。

#### 7. 論文等の公開

掲載論文等は、インターネット上で公開することがある。

#### 8. 原稿提出

「『農林業問題研究』大会個別報告掲載申込書」を投稿原稿に添えて、下記編集委員会宛に提出すること。また、提出封筒の表に「大会個別報告論文原稿」と朱書きすること。（平成19年7月1日改正）

大会に関するご連絡・お問い合わせ、個別報告要旨原稿の送付先。

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入る

中西印刷株式会社社会部内 地域農林経済学会事務局（担当：河合）

TEL:075-415-3661、FAX:075-415-3662、E-Mail:arfe@nacos.com

本学会ホームページ：<http://www.soc.nii.ac.jp/arfe/>